

# CREATIVE PLATFORM

CREATIVE  
PLATFORM  
NEWS vol. **2**

SPECIAL INTERVIEW

## 遠山正道

MASAMICHI TOYAMA

## 馬場正尊

MASATAKA BABA

## OITA CREATIVE WEEK 12.7<sup>水</sup> → 10<sup>土</sup>

12月7日から10日までの4日間、クリエイティブやデザインの力を知り、これからの活用について考える連続トークイベント『OITA CREATIVE WEEK』を開催します。『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』の第2回開催のほか、事業のお悩みをクリエイティブの力で解決に導く『クリエイティブ相談室』出張編、海外の販路開拓を支援する『MORE THAN プロジェクト Local Talk Jam CARAVAN』、デザインを活用するための理解を深める『九州デザイン横丁』など、多彩な切り口で社会におけるクリエイティブの有用性を探ります。

**会場** 大分銀行赤レンガ館  
大分県大分市府内町2-2-1

**参加費** 無料(交流会費は別途必要)



大正2年に建てられた、大分市中心市街地のシンボル。国の登録有形文化財に登録され、現在は大分銀行赤レンガ支店として活用されています。

設計：辰野片岡建築事務所

**7<sup>水</sup>** 18:00 - 20:30



### MORE THAN PROJECT Local Talk Jam CARAVAN in Oita

全国各地との双方向の連携を生み出すことを目的に全国10カ所で開催するトークイベント。大分県では「ものづくり」「プロデュース」「支援」の3つの観点から、商材を世界に送り出すためのプロセスやその可能性について考えます。

登壇者：安部 浩・公 延 凱(株式会社 山下工芸)、中野伸哉(株式会社 国東七 代表取締役)、三代吉彦(大分銀行 地域創造部)、秋元友彦・菊地 充(株式会社 ロフトワーク)

モデレーター：山出淳也(CREATIVE PLATFORM OITA 編集長)

主催：株式会社 ロフトワーク

共催：CREATIVE PLATFORM OITA

協力：経済産業省

**9<sup>金</sup>** 17:00 - 19:00

### 出張！クリエイティブ相談室

クリエイティブな視点から、事業のお悩みを解決する方法を探る公開相談会。多くの業種・業態に共通するビジネスの課題を共有し、そこにクリエイティブがどう作用するのかを一緒に考えてみませんか？

相談者：愛彩ファーム九重、大山直美(大分エコセンター 株式会社 代表取締役社長)、尾野文俊(鬼塚電気工事 株式会社 代表取締役社長)

モデレーター：山出淳也(CREATIVE PLATFORM OITA 編集長)

主催：CREATIVE PLATFORM OITA

**10<sup>土</sup>** 18:30 - 20:30

### 九州デザイン横丁 in 大分



デザインが秘めている可能性を信じて、もっと活用してみませんか？デザインの取り入れ方や成果など、ぶっちゃけ話も交えながら、これからのデザインと地域やビジネスとの関係性を探りましょう。

パネリスト：梶原道生(カジワラブランディング)、神谷禎恵(生活工房とうがらし)

司会：中村友香(九州アートディレクターズクラブ)

主催：NPO法人 FUKUOKAデザインリーグ、九州アートディレクターズクラブ

共催：CREATIVE PLATFORM OITA

**8<sup>木</sup>** 17:00 - 19:30



### CREATIVE PLATFORM CAFÉ vol.2 場を活用する、場をプロデュースする

不動産に新たな価値を見出し発信する『東京R不動産』の活動でも知られる建築家の馬場正尊さんと、『Soup Stock Tokyo』や『PASS THE BATON』など、業種を超えて時間や場の使い方をプロデュースする遠山正道さんをお迎えしてのトーク&交流イベント。

ゲスト：遠山正道(株式会社 スマイルズ)、馬場正尊(株式会社 Open A)

モデレーター：山出淳也(CREATIVE PLATFORM OITA 編集長)

主催：CREATIVE PLATFORM OITA

## SPECIAL INTERVIEW 3

# 遠山正道

株式会社 スマイルズ



スープ専門店『Soup Stock Tokyo』や、セレクトリサイクルショップ『PASS THE BATON』など、これまでになかった価値や未来を創造している株式会社 スマイルズ。その代表取締役社長の遠山正道さんに、そのビジネスモデルの源となったビジョンや信念についてお話しいただきました。

聞き手：山出淳也

**山出：**近年、「共感」という価値に重きが置かれるようになったと感じています。このように、価値そのものが大きく変わりつつあるなかで、スマイルズさんは価値やその本質についてどのようにお考えですか？

**遠山：**ビジネスとアートって、似ているんですよね。うちにはマーケティングの発想がありません。アーティストはどんな作品を作るべきかお客さんに聞いたりしないでしょう。自分に動機があって、それを世の中に提示し、評価を得る。そういうやりとりをビジネスの上でも実現したかったんです。

**山出：**それをビジネスとして成立させるということは、まだ誰も見たことのない価値や未来を創造しているということなのでしょうね。

**遠山：**時代は個人の発意のようなものを必要としていると思うんです。言われたことしかしないのではなく「頼まれてもいい仕事」を大事にしたいと思っています。たとえば、『Soup Stock Tokyo』ではインフラビジネスをやりたいかったです。個人経営の小さなカフェなら誰でも立ち上げられるけど、商事だからこそできることをやってみたくて。それまで女性が1人でも立ち寄りやすいファストフード店ってなかったし、安かろう悪かろうの代名詞みたいな店ではなく、多少割高でも質のいいものを早く提供できるインフラを実現したかったんです。早さと質の悪さは必ずし

もイコールではないし、それに適応できる世の中を作りたいたいという大きなビジョンがありました。抽象的な表現ですが、その後のビジネスでも、私は出会い頭の恋のような「出会っちゃった」という感じのものが多いですね。

**山出：**『PASS THE BATON』も、リサイクル品のセレクトショップという新しいビジネスモデルでしたが、これもやはり「出会い頭の恋」だったんですか？



**遠山：**『PASS THE BATON』は、物件ありきだったんです。三菱商事が再開発にあたっていた物件を活用し、事業を立ち上げたいと言われたんです。リーマンショックの後でしたし、今更つるつるびかびかのものを作る気分にはなれないなと思い、リサイクルをしようと思ったんです。でも、みんなが想像するリサイクルショップのあり

方を超えたいと思っていました。『PASS THE BATON』では、リサイクルの意義が到達するところを見定めたいと思っています。

**山出：**遠山さんの仕事上の信念を教えてください。

**遠山：**「根っこの発意」かな。うちは個人の夢から始まる小規模なビジネスがほとんどなんです。いろんな事業を展開していますが、それぞれのビジネスの規模は小さく、リスクマネーを少なくしています。だから個人の夢に対して「やってみよう」と言えるんです。この小ささも面白さに繋がっているんじゃないかな。

**山出：**企業だからこそできるやり方で、個人の発意を実現しているんですね。

**遠山：**ええ。個人ではとてもできないようなことも、企業だったら資金や人員の面で力があるから実現できる可能性がある。その可能性を積極的に広げていきたいし、なにより感動したいんですよね。企業って、どうしても考え方が固定化しちゃうでしょう。それは本当にもったいない。ちょっと揺さぶったり、目標を上げたりするだけで、本来見えるはずの景色を見るためのサポートができるんじゃないかなって思います。

### 遠山正道 (株式会社 スマイルズ)

1962年東京都生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、1985年三菱商事株式会社入社。2000年株式会社スマイルズを設立、代表取締役社長に就任。現在、食べるスープの専門店『Soup Stock Tokyo』のほか、ネクタイ専門店『giraffe』、現代のセレクトリサイクルショップ『PASS THE BATON』、ファミリーレストラン『100本のスプーン』などを展開。『生活価値の拡充』を企業理念に掲げ、既存概念や業界の枠にとらわれず、現代の新しい生活の在り方を提案している。近著に『成功することを決めた』(新潮文庫)、『やりたいことをやるビジネスモデル-PASS THE BATONの軌跡』(弘文堂)がある。ニューヨーク、赤坂、青山などで個展を開催するなど、アーティストとしても活動する。



## SPECIAL INTERVIEW 4

# 馬場正尊 株式会社 Open A

建築設計事務所「Open A」代表で、建築家でありながら不動産仲介サイト「東京R不動産」や、公共空間を流通させるためのシステム「公共R不動産」などのディレクションも手がける馬場正尊さん。都市の中で活用されていない空間に面白さや新たな価値を見出すとともに、発信し流通させるためのメディアを立ち上げた、その理念や手法を伺いました。

聞き手：山出淳也

**山出：**『東京R不動産』は、通常の不動産紹介サイトとは異なる切り口で、個性的な物件を紹介していますが、これらはリノベーションせずに原状のままを紹介しているのでしょうか？

**馬場：**最初は「面白い物件を探す」という考現学的視点を大切にしていたので、リノベーションせずにそのまま紹介していました。でも『東京R不動産』のメンバーには設計事務所も含むので、物件の発見から企画設計、リーシングまで可能という強みを活かすようになりました。リノベーションすると賃貸坪単価は高くなりますが、オンリーワン物件だから「その空間が好き!」という人は選んでくれますよ。

**山出：**価値の判断や基準がぶれないということも大きいですね。そうやって、今まで価値がないと思われていたものを価値化し、視覚化していったんですね。

**馬場：**その人にとって、何が価値になるかということなんです。そもそも不動産の流通の仕組みは供給者の理論で作られていましたが、人口が減り、消費がだぶつてきたことで、だんだん需要者のリアルなニーズが反映されやすくなってきました。みんな今まで、空間は買うものだと思ってきたんです。でも、空間は、自分で作ったり編集したりできるんです。

**山出：**リノベーションをしたいという依頼や相談も増えてきましたか？

**馬場：**ええ。最近は大きな企業からの依頼も増えました。いつのまにかリノベーションが社会の本流に影響する何か変わったように感じています。

**山出：**現在、新たに取り組んでいることについてもお聞かせ願えますか？

**馬場：**「次にリノベーションすべきは公共空間ではないか」と考え、去年、公共空間を使うためのサイト『公共R不動産』を作りました。

**山出：**「公共空間を使う」とは、どういうイメージですか？

**馬場：**たとえば公園って、たくさんあるけど全然使われていないじゃないですか。でも、清掃することを条件にその空間をカフェとかに貸せば、みんながハッピーになれるんじゃないかって思ったんです。今はまだそのためのシステムがないから『公共R不動産』で作ることにしたんです。実際にやりはじめると、これは日本の硬直した公共システムに風穴を開けるほどのことだと感じています。

**山出：**なぜ公共のあり方って硬直しているんですか。

**馬場：**手続きが増え続けていますし、過度な公平性を追及せざるを得ない社会システムになっている。行政は過剰な管理義務を背負ってしまったのには、市民にも責任が

あります。公共空間は市民みんなのものなのに、行政が管理するものだと思い込み、自分たちで考えようとしていない。

**山出：**馬場さんは、公共空間がどういう状態であれば望ましいと考えますか？



**馬場：**民間が自主運営することですね。そこには責任が発生しますが、責任の所在を明らかにしたほうがいいと思っています。公共空間には仲介手数料がないから流通しないんだということもわかってきました。公共空間について考えることは、民主主義について考えることではないのかと思うことすらあります。

**山出：**極端な話ですが、行政を株式会社化するイメージに近いですね。

**馬場：**そうそう。「株式会社 大分市」とか「株式会社 大分県」とか、そういうのができていくと面白いですよね。

馬場正尊 (建築家 / Open A Ltd. 代表取締役 / 東京R不動産ディレクター)

1968年佐賀県生まれ。早稲田大学大学院建築学科修了後、博報堂へ入社。博覧会やショールームの企画等に従事。その後早稲田大学大学院博士課程へ復学、建築とサブカルチャーをつなぐ雑誌「A」編集長を務める。2003年、建築設計事務所Open Aを設立。個人住宅の設計から商業施設のリノベーション・コンバージョン、都市計画まで幅広く手がける。東京R不動産では編集・制作面を担当し月間300万PVの人気サイトに育て上げる。東北芸術工科大学教授を務めるほか、イベント・セミナー講師など多方面で活躍。『だから、僕らはこの働き方を選んだ 東京R不動産のフリーエージェント・スタイル』(ダイヤモンド社)、『都市をリノベーション』(NTT出版)など著書多数。近著に『エリアリノベーション 変化の構造とローカライズ』(学芸出版)、『PUBLIC DESIGN 新しい公共空間のつくりかた』(学芸出版)、『RePUBLIC 公共空間のリノベーション』(学芸出版)など。



# CREATIVE PLATFORM CAFÉ



## ● イベント後記

太刀川さんがディレクションやデザインに携わった『東京防災』が、2016年のグッドデザイン金賞を受賞されました。おめでとうございます！

また、林さんが代表取締役を務める株式会社 ロフトワークは、海外進出のためのノウハウの共有や連携を図る『MORE THAN プロジェクト Local Talk Jam CARAVAN』を12月7日(木)に大分市で開催します。詳細は中面をご覧ください。

## CREATIVE PLATFORM CAFÉ vol.1 開催レポート

9月29日(木)、「平成 28 年度クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」のキックオフと公式 Web サイト『CREATIVE PLATFORM OITA』の開設を記念し、トークイベントと交流会を開催しました。

ゲストに林 千晶さん(株式会社 ロフトワーク)、太刀川 瑛弼さん(NOSIGNER 株式会社)、西垣淳子さん(経済産業省 クリエイティブ産業課長)をお招きし、トークイベントでは、ご自身の活動やクリエイティブ産業の事例についてプレゼンテーションしていただきました。

西垣さんからは、経済産業省がクリエイティブ産業課を設置するに至った経緯や指針、具体的な事例などをお話いただきました。「感性価値」を備え日本の魅力を発信できる優れた製品の創出と、海外での販路開拓、そしてそこで重要になるデザイナーやクリエイターの役割を『MORE THAN プロジェクト』『WONDER 500』などの事例とともにご紹介いただきました。

林さんからは、地域の名産品と世界のクリエイターを繋ぎ商品開発をすることにより、多量に売上げ 20 倍増などの成果をあげ

た『Rooots 名産品リデザインプロジェクト』の事例や、現在計画中の『ビジネスストリップ』についてお話しいただきました。

太刀川さんは新たな試みとして、トーク中に出てきたキーワードを壇上でタイピングし、プロジェクターで投影しながら『OLIVE プロジェクト』や『東京防災』など、ご自身の活動を紹介されました。黒地に白い文字が次々に打ち出されていく様子はまるで映画を見ているようで、1つひとつの言葉が視覚的にも印象付けられ、通常のトークとは異なる感覚を体験しました。

続くクロストークでは「デザインとは何か」という率直な質問から始まり、多様性や生物の進化なども例に挙げながら「クリエイティブとは何か」「どのような環境において誘発されるのか」など、クリエイティブ産業を創出するうえで大きなヒントになるお話しをたくさんお聞かせいただきました。

このイベントを通じ、みなさまにもクリエイティブ産業を実現するためのイメージを抱いていただけたなら幸いです。

## CREATIVE PLATFORM NEWS とは

大分県は、クリエイティブな手法による新たな産業創出を目指し「平成 28 年度 クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」を実施しています。本事業は、大分県内の企業が有する技術やノウハウに、クリエイティブな発想や考え方を組み入れることによって、競争力の強いサービスの開発や、新規マーケットの創出につなげることを目的としています。

本年度は公式 Web サイト『CREATIVE PLATFORM OITA』の制作および、交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』の開催を通じて、全国の事例を知ると

ともに、大分県におけるクリエイティブ産業のあり方や、その可能性を考察します。

『CREATIVE PLATFORM NEWS』では、本事業の最新の情報と、全国各地でクリエイティブ性を活用した事業に取り組む方々へのスペシャルインタビューをお届けいたします。また、本紙でご紹介する方々をゲストに迎える『CREATIVE PLATFORM CAFÉ』では、トークイベントと交流会を定期開催します。大分のクリエイティブを刺激する情報の発信・共有の場となるよう、毎回異なるテーマや演出を予定しております。

す。ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

本事業の最新情報は、公式サイト『CREATIVE PLATFORM OITA』および Facebook、twitter からご覧いただけます。また、メールマガジンにご登録いただくと、イベント情報の先行告知や先行予約などの特典のほか、事業の最新情報や会員だけが読めるスペシャルコラムなどを無料でお届けいたします。

ご登録は公式 Web サイトから <http://creativeoita.jp>



本紙掲載情報およびイベント参加のお申し込み・お問い合わせ NPO法人 BEPPU PROJECT (担当 松田・田島) 営業時間: 月～金 9:00-18:00 tel: 0977-22-3560

発行・編集 発行元: 特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 〒874-0933 大分県別府市野口元町 2-35 管建材ビル 2 階 url: <http://www.beppuproject.com>

発行人: 山出淳也 (特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 代表理事)

\*本紙は「平成 28 年度 クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」の最新情報をお伝えする広報紙です。本事業は NPO 法人 BEPPU PROJECT が大分県から業務委託を受けて企画・運営しております。